

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	73	学校名	浜松湖東高等学校	校長名	渥美 真人
------	----	-----	----------	-----	-------

1 スクール・ミッション

地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組み、生徒自身が実際に様々な社会問題と向き合うことで、実社会との関わり方を体験を通して学び、論理力や答えの出ない事態に耐え得る力を身に付け、「自分から、自分らしく、自分の言葉で語れる生徒」の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

【グラデュエーション・ポリシー】

答えの出ない事態に耐え得る力を身に付け、相手の主張の道筋を読み解き、自分の考えを整理して自分の言葉として伝えることができる。

【カリキュラム・ポリシー】

探究を軸に自分で見つけたことを相手に説明し、自分で分かったつもりのが分かってもらえないことを、対話を繰り返す中で自分から自分の考えを見直して自分の言葉にしていく。そのために、教科横断的な視点で以下6つの資質・能力を育成する。

- ①「論理的思考力」(相手の主張の道筋を読み解き、自分の考えを整理して伝える力)
- ②「関連づける思考力」(唯一の正解が存在しないものに、最適解や納得解を見出す力)
- ③「分析・批判的思考力」(対立やジレンマに折り合いをつける力)
- ④「ネガティブ・ケイパビリティ」(答えの出ない事態に耐え得る力 / やり抜く力(グリット(GRIT) / 立ち直りを促進する力(レジリエンス(RESILIENCE)))
- ⑤「コミュニケーション能力」(他者と良好な人間関係をつくる力 / 他者との対話の中で、自分の考えを再考し、自己の理解を深める力)
- ⑥「発信力」(自分の考えを要約して相手の記憶に残るように話す力)

【アドミッション・ポリシー】

答えのない問いに挑み、仲間と共にやり遂げる体験を通して、自ら学び、成長していこうとする。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 対話により建設的相互作用を引き起こす知識構成型学習

「ジグソー法」

(テーマや課題について、役割分担をして調べ学習を行い、自分が調べた内容を教え合う手法)

「R80」

(2文を接続詞一つで結び80字以内で書く手法)

イ 総合的な探究の時間

「ソーシャルチェンジ」(困っている人を助けて、笑顔にする企画を考えるプログラム)

「コーポレートアクセス」(実在する企業でのインターンシップを教室で体験しながら、企業と共に未来をつくっていくプログラム)

「課題研究」

ウ 探究プロジェクト

「フェアトレード(公正な貿易)」

「コトバショ(小中学生の子どもへの学習支援)」

「ジェンダー(平等な社会)」

様式第1号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	自ら学ぶ習慣を育成し、確かな学力を伸長させる。	授業を中心とした予習と復習、課題等を着実にを行う中で、生徒が自ら苦手箇所を正確に把握し、1人1台端末を活用して、個々に適した学習を見つける。	自分自身の苦手箇所を正確に把握し、自分に合った学習を進められる生徒 70%以上	教務 各学年
	探究的な学びを推進する。	総合的な探究の時間において「ソーシャルチェンジ」「コーポレートアクセス」プログラムを実施するとともに、「フェアトレード」「コトバシヨ」の企画・運営・調整等を行う。	自分の最適解や納得解など考えを表現できると答える生徒 70%以上	探究プロジェクト委員会
		授業で生徒に期待する資質・能力の発揮のされ方を明確化し、生徒が主体的に授業に取り組めるよう授業改善を行う。		各教科 教務 情報 DX
	「時を守り、場を清め、身を正す」指導をすすめる、規範意識を醸成する。	保護者の理解・協力を得ながら、全教員の共通理解の下、生徒が自ら意識して行動できるような指導を行う。	校内における私物の管理(机上やロッカーの上等に放置しない)ができる生徒 95%以上	生徒 保健 各学年
			「生活面(服装・頭髪等)はしっかりしている」と答える生徒 85%以上	
	生徒が主体的に将来設計できるような進路指導を推進する。	進研記述、全統記述等の偏差値 50 ライン(模試の 35 点獲得ライン)から分析し、理解促進のために、一人ひとりに合った授業を進める。	自分自身の実力を正確に把握し、自分に合った進路を決められる生徒 80%以上	進路
			本校の進路指導に対して満足と感じる卒業生 90%以上	
	全員が積極的に関わり、主体性や社会性を育む。	成就感や達成感を持たせる指導を推進し、活動をいかした奉仕活動を実践する。	部活動に積極的に取り組んでいる生徒 80%以上	生徒
		生徒が自ら企画・実行できる特別活動を推進する。	各部活動による奉仕活動 年1回以上	
	一人ひとりが、諸活動に前向きに参加し、他者との関わりの中で自己肯定的感を醸成する。	自尊感情と規範意識のバランスのとれた育成のために、認めて育てる指導を行う。	本校の教員は自分のことを認めてくれていると感じる生徒 80%以上	保健
		課題を抱える生徒について情報を共有し連携した組織対応をする。		
	広い視野で物事を考えることができるよう、読書活動の充実を図る。	人間関係づくりプログラムを実施し、他者と良好な人間関係をつくる。	学校に安全・安心の場があると答える生徒 80%以上	生徒 保健 各学年
		読書に親しみ、自己の生き方在り方を考える生徒を増やす。	朝読書や授業を含め学校や家庭で読書に取り組めたと答える生徒 80%以上	
				図書・(研修)

様式第 1 号

イ	研修の充実を図り、その成果を共有することで、指導力の向上を図る。	公開授業日を年 2 日以上設定する。 授業改善及び学習評価の校内研修を年 2 回実施する。 校外研修の内容を共有し、いかす。	授業見学、授業改善及び学習評価の校内研修、校外研修の内容を共有し、授業で実践した教職員 70%以上	(図書)・研修
	内規・各種規定の整理を行い、効果的な指導方法を検討する。	各種内規・規定及び、各分掌・学年の事業の見直しを行う。	点検した内規・規定 100% 各事業の目的の明確化 100%	全分掌
	保護者、県民等への広報活動を充実する。	ホームページやInstagramの更新に努めると共に、メール送信を積極的に活用する。	ホームページとInstagram更新合計回数 年 200 回以上 行事開催の案内通知と併せたメール送信やオンライン配信の実施	教務 総務 情報 DX
	PTA・後援会・同窓会と連携した教育環境の整備を図る。	生徒や保護者の意向を重視した環境整備を行う。	良い環境で学習・部活動ができていると感じる生徒 70%以上	総務 事務
	施設設備の充実を図る。	常に安全に配慮し、計画的に修繕する。	危険性の早期把握、迅速な対策、及び利便性の向上	事務
ウ	校内業務が、職員にとって過重な負担とならないよう、業務の見直しと改善を行う。	業務の在り方、見直しについて一人ひとりが意見を出しやすい環境をつくり、全員で実践できる体制を整備する。	業務の見直しについて、小グループ(分掌・学年等)での検討 月 1 回以上 全体での検討 年 2 回以上	全職員
		時間外在校等時間数の状況を把握、分析したうえで、教職員一人一人が業務の効率化を工夫し、時間外勤務の削減に努める。	完全退勤時刻(20 時)の遵守 各自定時退勤(16:45) 週 1 回以上	